第43号
2026.10.23

みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。
ーギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ ---------- 2
福岡県知事あいさつ ---------- 3
福岡県保育士会会長あいさつ ---------- 4
公立発信 ---------- 5
九州保育三団体研究大会宮崎県大会報告 ---------- 6
みなさまこんにちは「ほいく福岡です」 ---------- 8
新園紹介 ---------- 9
コラム・編集後記 ---------- 10

公益社団法人 福岡県保育協会

https://www.fphk.jp/ 福岡県保育協会 で 検索

公益社団法人福岡県保育協会 会長　岡村 斉

会長あいさつ



このたび、公益社団法人福岡県保育協会の会長という大役を務めさせていただくこととなり、その責任の重さを改めて感じております。同時に、これまで本協会の発展のためにご尽力いただいた諸先輩方、そして日々子どもたちの育ちを支えておられる会員の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

現在、我が国は急速な少子化という大きな課題に直面しています。子どもの数が減少する一方で、子育てに対する不安や負担感、家庭を取り巻く環境の変化など、子どもを産み育てることをめぐる社会的な課題は、ますます複雑になっています。また、近年、地震や豪雨など、各地で自然災害が相次いで発生しています。今回の熊本地震においても、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

災害が発生した際、子どもたちの命と安全を守ることは、私たち保育に携わる者に課せられた最も重要な使命の一つです。同時に、子どもたちにとって保育施設は、日々の生活を支える大切な場所であり、災害時においても安心できる居場所であり続けることが求められます。　だからこそ、平時からの防災・減災への取り組みはもちろん、災害発生時における保育の継続、地域や行政、関係機関との連携、そして子どもたちの心のケアについても、保育協会としてしっかりと考えていかなければならないと考えております。

こうした中、保育の現場では、保育人材の不足や職員の確保・定着、業務負担の軽減など、喫緊に取り組まなければならない課題も山積しています。どれほど素晴らしい制度や施策があっても、それを実際に子どもたちの前で担う保育者がいなければ、質の高い保育を継続していくことはできません。保育人材の確保と育成、そして保育者が誇りとやりがいを持って働き続けることのできる環境づくりは、保育の質を守るためだけではなく、少子化対策を進める上でも極めて重要です。

子どもを安心して産み、育てることのできる社会をつくるためには、子育て家庭への支援とともに、「安心して子どもを預けられる場所がある」「子どもの成長を共に支えてくれる専門職がいる」という安心感が欠かせません。保育は、子どもの育ちを支える営みであると同時に、子育て家庭を支え、地域社会の未来を支える重要な社会基盤です。福岡県保育協会は、会員の皆様と力を合わせ、保育人材の確保・育成、保育の質の向上、保育現場の環境改善に取り組んでまいります。また、県・市町村をはじめ関係機関・関係団体との連携をさらに深め、現場の声を社会に届け、これからの保育を支える仕組みづくりにも力を尽くしてまいります。

そして何より、私たちが大切にしたいのは、子ども一人ひとりの「今」です。子どもたちが安心して過ごし、自分らしく成長できる環境を守ること。そのために、保育者が専門性を発揮し、誇りを持って子どもたちと向き合える環境をつくること。そして、子育てを家庭だけの責任とするのではなく、地域と社会全体で支えていくこと。これらの取り組みを一つひとつ積み重ねることが、子どもたちの未来を守り、ひいては少子化という大きな課題に向き合う力になるものと信じています。

福岡県のすべての子どもたちが健やかに育ち、保育者が希望と誇りを持って働き、子育て家庭が安心して子どもを育てることのできる社会を目指して、会員の皆様とともに歩んでまいります。今後とも、皆様方のより一層のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げ、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

福岡県知事　服部 誠太郎

知事あいさつ



挨拶に先立ち、本年７月に発生した「令和８年熊本地震」でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての皆さまに心よりお見舞い申し上げます。福岡県といたしましては、一日も早く被災地の皆さまが元の平穏な生活にお戻りいただけるよう、引き続き全力で支援をして参りたいと考えております。

岡村会長をはじめ、公益社団法人福岡県保育協会の皆さまにおかれましては、日頃から保育の発展・普及活動にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。また、保育現場の最前線で日々奮闘されている、保育に携わる皆さまの熱意とご努力に深く敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

さて、国は、令和７年度から１０年度末を見据えた「保育政策の新たな方向性」を打ち出し、待機児童対策を中心とした「保育の量の拡大」から、「地域のニーズに対応した質の高い保育の確保・充実」と「全てのこどもの育ちと子育て家庭を支援する取組の推進」へと、政策の軸を大きく転換しました。あわせて、「保育人材の確保・テクノロジーの活用等による業務改善」を強力に進め、制度の持続可能性を確保することとしています。

持続可能な質の高い保育を実現し、保育施設が地域におけるこども・子育て支援の拠点として機能を最大限発揮するためには、保育人材の十分な確保や、全てのこどもを安心して預けることができる保育体制の強化が喫緊の課題となっています。

このため本県では、保育士不足の解消に向け、福岡県内で業務を行うことを条件として実技試験の代わりに実技講習で資格取得が可能となる「地域限定保育士試験」を今年度初めて実施し、この度、４８名の方が合格されました。今後、地域限定保育士として登録後、県内の保育現場で活躍されることを期待しています。県としましても、県保育士・保育所支援センターによる県内保育施設とのマッチングを行うなど、しっかりとサポートしてまいります。

また、未来の保育を担う人材を確保するため、昨年度に引き続き、保育の仕事の魅力を紹介する動画を配信するとともに、中高生を対象とした「1day 保育士フェア」を県内４地域で開催しました。このフェアでは、若手保育士によるトークや保育士養成施設による体験ワークショップなどを通じ、保育の仕事のやりがいや魅力を広く発信したところです。早い段階から保育という仕事への関心を高め、次世代の保育の担い手を育てる環境づくりに努めています。

さらに、保育の質向上を目的とし、県では保育施設に勤務する方々を対象とした各種研修を実施しています。特に今年度は、不適切な保育の未然防止や虐待防止体制の強化を図るため、貴協会のご協力のもと虐待防止研修を実施しました。こどもの最善の利益を第一に考え、日々実践を積み重ねておられる皆さまとともに、安心・安全な保育環境をより強固なものにしてまいります。

保育は、未来を担うこどもたちの成長を支える社会の礎であり、保育現場の皆さまが笑顔で働ける環境こそが、こどもたちの笑顔を守る基盤であると強く認識しております。今後も、現場の声にしっかりと耳を傾け、保育士の給与水準の改善や、業務負担の軽減、働きやすい職場づくりを支援する施策を強力に推進してまいります。

こどもは福岡県の未来を担う宝であり、すべての県民の元気の源です。これからも、こどもが健やかに育ち、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを、皆さまとともに進めてまいりますので、ご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますのご発展と、日頃より献身的に取り組まれている皆さまのご健勝とご活躍を、心から祈念いたします。

福岡県保育協会保育士会 会長　佐保 眞寿美

保育士会会長あいさつ



子どもたちの育ちは、一人ひとり異なり、その歩みもさまざまです。だからこそ、目の前の子どもの姿をよく見つめ、子どもの思いや気持ちを受け止めながら、その育ちを支えていくことが、私たち保育者の大切な役割であると考えています。

日々の保育の中では、子どもたちが思いきりあそび、友だちや保育者との関わりを通して、さまざまなことを感じ、考え、学んでいきます。その一つ一つの経験が、子どもたちのこれからの育ちにつながっていくことを思うと、私たち保育者には、子どもの「今」を大切にしながら、その先にある未来を見つめて関わることが求められているのだと感じます。

今年４月には、「保育所保育指針、認定こども園における保育の内容の基準等のあり方について」が公表され、保育所保育指針の見直しに向けた議論が本格的に進められています。今回の見直しでは、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が初めて一体的に検討されていることが大きな特徴です。施設の種別を超えて、すべての子どもに質の高い乳幼児期の教育・保育を保障するという考えのもと、子どもが主体的に遊び、学び、育つことや、乳幼児期から切れ目なく育ちを支えていくこと、家庭や地域と連携しながら子どもの育ちを支えていくことなどが示されています。こうした動きは、制度を見直すということだけではなく、私たち一人一人が改めて保育の原点を見つめ、「子どもにとって、よりよい保育とは何か」を考える機会でもあるのではないでしょうか。

また、保育現場における不適切な関わりが社会的な問題として取り上げられる中、私たち一人ひとりが日々の保育を振り返り、子どもの思いや声を丁寧に受け止めることの大切さを、改めて心に留める必要があります。子どもにとって安心できる保育とは何かを考えながら、よりよい保育を実践するために、私たち自身も学び続けることが大切であると感じています。

保育士会では、保育の質の向上を目指し、参集型による研修を中心に活動を進めています。子どもの人権や発達理解、虐待防止、保護者支援、安全管理など、現場で求められるさまざまなテーマを取り上げるとともに、参加者同士が日頃の実践や課題について語り合う時間も大切にしています。同じ場所に集い、顔を合わせて学ぶことで、講師からの学びだけでなく、他園での実践や工夫に触れ、新たな気づきを得ることができます。また、保育の悩みや喜びを仲間と共有し、互いに励ましあうことは、明日からの保育に向かう力にもつながります。

保育士会は、「学び合い、支え合う場」であるとともに、保育の魅力や専門性を社会に伝えていく役割も担っていると考えています。子どもたちの育ちを支えている保育者の姿や、日々の実践に込められた思いを広く知っていただくことは、保育への理解を深め、子どもたちを社会全体で育んでいくことにもつながります。

そして、今年は7月に発生した熊本地震を通して、改めて災害への備えや、人と人とのつながり、支え合うことの大切さを考える機会となりました。熊本県では、保育施設にも被害が生じ、現在も復旧や対応に尽力されている園があります。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く、子どもたちが安心して過ごせる日常が戻りますことを心より願っております。

災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。だからこそ、日頃から備えることに加え、いざという時に声を掛け合い、支え合えるつながりを大切にしていくことが必要です。保育の現場においても困ったときに相談できる仲間がいること、互いの経験や思いを分かち合えることは、大きな支えになります。

福岡県保育士会としても、会員の皆さまとのつながりを大切にしながら、学び合い、支え合い、共に保育を高めていける保育士会であるよう努めてまいります。

公立発信

地域とともに 子どもを育む保育所

朝倉市立　福田保育所 所長　梅野 裕美





はじめに

朝倉市立福田保育所は、昭和49年に設立し朝倉市北部の豊かな自然に囲まれた地域にあります。保育所の周囲には田園風景が広がり、四季折々の自然の変化を身近に感じることができます。このような恵まれた環境の中で、子どもたちは毎日元気いっぱいに過ごしています。

保育理念

〇子どもの笑顔が輝き、豊かに生きる力を育てる。
〇子ども一人ひとりを大切にし、地域・保護者と共に子どもの育ちを支える

福田保育所では、「明るくのびのびと遊び生活する子ども」「思いやりがあり、豊かな人間性もった子ども」「自ら考え行動し意欲的に取り組む子ども」の育成を保育目標に掲げています。人と関わる力や自ら考えて行動する力、困難に立ち向かう力が必要です。私たちは日々の保育の中で、一人ひとりの思いを受け止めながら、その子らしさを大切にし、自信をもって成長していけるよう支援しています。

地域との交流

民生委員・児童委員の皆さまと芋ほり体験の場所まで子どもたちは手をつないで歩きながら、地域の方々と自然に言葉を交わします。「大きくなったね」「元気に遊んでいるね」と声を掛けてもらうことで、自分たちが地域に見守られている存在であることを感じています。多くの大人との関わりの中で育つ経験は、子どもたちの心の安定にもつながっています。

また、福田有志の会の皆さまには毎年芋掘り体験でお世話になっています。この活動は子どもたちが心待ちにしている行事の一つです。畑の中で土を掘り、大きな芋を見つけた時の表情は輝いています。友達と協力しながら収穫する喜びを味わい、自分たちで掘り出した芋を給食やおやつでいただくことで、食べ物への関心や感謝の気持ちも深まります。実際に土に触れ、収穫を体験することで、食卓に並ぶ食材が多くの人の努力によって支えられていることを実感できます。

ブリヂストン甘木工場の皆さまとの蛍の放流や蛍鑑賞会参加

子どもたちは地域の自然環境や生き物について学ぶ機会を得ています。

子どもたちは蛍について話を聞いたり実際に観察したりする中で、生き物が暮らす環境の大切さを知ります。また、小さな命を見つめる経験は、命の尊さを考えるきっかけにもなっています。地域の自然を守る活動に触れることで、ふるさとへの愛着や環境を大切にする心も育まれているように感じます。

地域の伝統行事

由緒ある古社である蜷城地区の美奈宜神社では、毎年秋の大祭「おくんち」が開催されます。福田保育所の年長児は、その伝統ある「御神幸行列」のお神輿引きに参加しています。地域の方々との温かな交流を通して、ふるさとの歴史や文化に親しみながら、さまざまな貴重な体験を積み重ねています。

小学校や中学校との連携

小学校見学や交流活動を行っています。実際に校舎を見たり、小学生と関わったりすることで、小学校生活を具体的にイメージできるようになります。「小学校は楽しそう」「早く行ってみたい」という気持ちが芽生え、入学への期待を高めています。さらに、中学生の職場体験学習の受け入れも行っています。保育士の仕事を体験しながら、子どもとの関わり方や命の大切さについて学んでもらっています。中学生にとっては将来の職業を考えるきっかけとなり、子どもたちにとってはお兄さん、お姉さんとの交流を楽しむ貴重な機会となっています。

おわりに

保育所での毎日は、一見すると当たり前のことの積み重ねです。友達と笑い合うこと、自分の思いを伝えること、相手の話を聞くこと、自然の中で思い切り遊ぶこと、新しいことに挑戦すること。その一つ一つが子どもたちの成長を支えています。

私たちは、子どもたちが「保育所が楽しい」「明日も行きたい」と感じられる場所であり続けたいと思っています。また、保護者にとって安心して子育てができる場所であり、地域の皆さまにとって身近で親しまれる保育所でありたいと考えています。

これからも地域の皆さまへの感謝を忘れることなく、人と人とのつながりを大切にしながら保育を続けてまいります。そして、子どもたちが多くの人に支えられながら成長し、将来ふるさとを愛し、自分らしく輝いて生きていけるよう、地域とともに歩んでいきたいと思います。地域に支えられ、地域とともに成長する保育所。その歩みを今後も大切にしていきたいと思います。

「すべての子どもの権利と育ちを保証していく社会の実現」を目指して

平野保育園 園長　井上 孫紹

令和８年７月 16 日、17 日の２日間にわたり、宮崎県シーガイアコンベンションセンターにおいて「第 10 回九州保育３団体研究大会」が開催されました。今回は「すべての子どもの権利と育ちを保証していく社会の実現を目指して」というテーマを掲げ、九州各県から多くの保育関係者が集い開催されました。

本大会は今回で記念すべき 10 回目の節目を迎えることとなりました。私は第１回の開催から欠かさず参加させていただいておりますが、これまでを振り返ると、過去の各大会のことが思い出されます。特に、コロナ禍による中止という苦難を乗り越え、その後、福岡、熊本、沖縄、そして今回の宮崎へと繋がれてこられました。今日まで開催を継続してこられた役員の皆様をはじめ、関係各位の多大なるご尽力に、まずは心より深い敬意と感謝の意を表したいと思います。

現在、私たち九州各県の保育現場は、これまでの想定を超えるスピードで進む深刻な少子化の波に直面しています。地方における人口減少や、都市部と地方との地域間格差の広がりは、各地の保育園における入園児数の減少を招いており、これまでの地域の保育体制を維持していくこと自体を、極めて難しくさせていると肌で感じております。さらに、現場の保育を支える重要な人材、特に保育士の確保と育成は、今やどの地域においても一刻の猶予も許されない課題となっています。

このような時代、そして変化の激しい時代を迎えているからこそ、本大会のように毎年場所を変え、その開催地を実際に訪れることには極めて大きな意味があるのではないでしょうか。その土地に足を運び、現地の空気を直接肌で感じることにより、自園にいるだけでは見えてこない、新たな課題や地域の取り組みを、新鮮な視点で認識することができるのではないかと強く感じています。

もちろん、基調講演や各分科会に精力的に参加し、最新の保育の動向や専門的な知見を学ぶことは大会の大きな目的であり、当然のことです。しかし、それ以上に各地の大会に参加することは、地元での日常業務のなかでは決して気が付くことができない「課題」や「新たな視点」に気づかせてくれる貴重な機会となります。

大会の基調講演・分科会等を通じて得られるものは「知識」です。そして、実際にその場所へ足を運んで見聞を広げるという「行動」があります。この二つが現地での体験を通じてしっかりと組み合わさり、お互いに響き合うことで、初めて私たちの未来を切り拓く「知恵」へ変化するのではないかと思っております。今大会で得たこの知恵を、今後の活動に活かしていき、保育現場を少しでもよりよくできる様、頑張っていきたいと思います。

保育の「質」を問い直す二日間

いわら保育園 園長　本田 陽介

７月 16 日、17 日の２日間、宮崎県で開催された第 10 回九州保育三団体研究大会に参加しました。大会主題は「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」。少子化が急速に進み、保育を取り巻く環境が大きく変化する今、九州各地の保育関係者が一堂に会し、これからの保育の役割を考える貴重な機会となりました。

今回、特に印象に残ったのは、保育政策が「量の確保」から「質の確保・充実」へと大きく転換しているということです。待機児童対策を中心に施設や定員を増やしてきた時代から、今後は一人ひとりの子どもの権利や育ちをどう保障するのか、そして地域の子育て家庭をどう支えていくのかが、これまで以上に問われます。

大会では、組織マネジメント、子育て支援・多機能化、関係機関との連携、保育の質の向上など、現在の保育現場が直面している課題が幅広く取り上げられていました。保育所や認定こども園の役割も、在園児を預かり、教育・保育を提供するだけではありません。地域の子育て支援、療育や行政等との連携、人材の確保と育成など、求められる役割は確実に広がっています。

一方で、何でも事業を増やせばよいわけではありません。制度や仕組みを整えること自体が目的になるのではなく、その中心には常に「子どもにとってどうか」という問いが必要です。大人にとって都合のよい保育ではなく、目の前の子どもの姿や声から保育を考え続けること。その積み重ねこそが「質」をつくるのだと改めて感じました。

また、九州各県の実践や考え方に触れることで、同じ保育に携わっていても、地域によって課題も方法もさまざまであることを実感しました。違いがあるからこそ、互いの実践から学び、自園の当たり前を問い直すことができます。大会という場には、知識を得るだけでなく、自分たちの保育を相対化し、次の一歩を考える意味があるのだと思います。

今回の学びを一過性のものにせず、職員と共有しながら、子ども一人ひとりを人として尊重し、地域に必要とされる園とは何かをこれからも考え続けていきたいと思います。





０歳から「学び」が始まっている。

あけみこども園 副園長　合代 諒

九州保育三団体研究大会宮崎県大会に参加し、これからの保育の方向性について多くの学びを得ることができました。

現在、保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の改定に向けた検討が進められており、その中で特に印象に残ったキーワードが「0 歳児からの学び」と「遊びの深まり」です。

これまで授乳や抱っこ、あやすこと、言葉を交わすことなどは「お世話」として捉えられることが少なくありませんでした。しかし、それら一つ一つの関わりこそが、人との信頼関係を築き、言葉や感情、社会性を育む大切な学びであるという考え方が、より明確に示されようとしています。

保育とは、知識や技術を教え込むことではなく、子どもが遊び、感じ、考え、人と関わる中で、自ら育っていく力を支える営みです。そのため、「今日は何ができるようになったか」という結果だけではなく、「今日は何を感じ、何に興味をもち、どのように遊びが深まったのか」という育ちの過程に目を向けることが、これからさらに重要になっていくと感じました。

また、保育所・幼稚園・認定こども園の 3 つの指針・要領については、共通性を高める方向で検討が進められています。施設の違いにかかわらず、すべての子どもが質の高い教育・保育を受けられることや、小学校への円滑な接続につながることが期待されています。

子どもの育ちは、小学校に入ってから始まるものではありません。生まれたその瞬間から、一人一人の学びは始まっています。だからこそ、私たち保育者には、その「今」を丁寧に受け止め、子どもの主体性や遊びを支え続ける姿勢が求められます。

今回の大会を通して、改めて保育の本質を見つめ直す貴重な機会となりました。この学びを日々の実践へとつなげ、子どもたち一人一人の育ちを支える保育を、職員とともに積み重ねていきたいと思います。

そして、来年度は九州保育三団体研究大会が福岡県で開催されます。学びを受け取る立場から、今度は学びを発信し、全国・九州の保育者をお迎えする立場となります。宮崎県大会で感じた温かなおもてなしや学びの深さを大切にしながら、福岡大会も実りある大会となることを期待しています。

こどもまんなか社会のためにできること

みずほこどもえん 保育教諭　下田 麻衣

今大会では基調講演・開催県特別分科会ともに、馬場耕一郎専門官による『こども家庭庁の政策』をテーマとした講演を非常に興味深く拝聴しました。政策と聞くと難しく感じるけれど実際にはどう関わってくるのか、現場で子どもたちの育ちを支える身近な保育士・保育教諭としてわたしたちには何ができるのか。講演の中で、自身や自園のことなどを振り返り見つめ直すきっかけにもなりました。

今後、０～５歳人口は減少し続ける見込みとのことで、影響を受けている園も少なくないのではないでしょうか。そんな中で、卒園した子どもたちが帰ってこられる場所を残していきたい、災害時にも立ち寄って、ホッと安心できる場所でありたい。今年７月２８日に発生した“令和８年熊本地震”を体験して、より一層強く考えるようになりました。そのためには、現場のわたしたち保育士・保育教諭も『こども家庭庁の政策』にまず興味を持つこと、そして少しずつ理解していくことが必要だと思います。

さて、大会日程が前後しますが、たくさん考えた頭をリフレッシュすることができたのが保育士会セミナーです。幼いころに教育番組でお世話になった“ひろみちおにいさん”。ご自身のご病気をもとにお話ししてくださる健康や運動の大切さは、とても共感できるものでした。子どもの育ちを支えるわたしたち保育士・保育教諭は、やはり身体が資本になってきます。時々立ち上がって軽くストレッチをしてみたり、買い物では少し遠くの駐車場に車を停めて歩いてみたり。子どもたちもわたしたちも笑顔であるために、できるところから始めていきたいですね。

また、記念講演での野田あすかさんによるピアノ演奏は言葉にしきれないほどの感銘を受けました。お母様の野田恭子さんが壮絶なお話を語られるお姿に、強さと当時の計り知れない苦難がにじみ出ているのを感じ、後のピアノ演奏がより心に沁みるものになっていたのだと思います。あすかさんが奏でる一音一音、指先、表情、紡がれる言葉たち、すべてにこれまでの想いが乗っているのが伝わり涙が止まりませんでした。わたしも今のままの自分でいいのだと言ってもらっているようで、心がスッと軽くなりました。

今大会の主題である“「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざして”という部分を、様々なところで感じることができた二日間になりました。素晴らしい大会の開催、ありがとうございました。

福岡県保育士・保育所支援センター ほいく福岡 をご利用ください！

1 求職者向け



【就業支援】専任のコーディネーターが１人つき、紹介から成約までお手伝いします。

- 求職者登録　・見学、面接の調整
- 求人紹介　　・保育１日体験研修

（保育現場を体験していただくための事業です。毎年６月から翌年２月まで実施しています。）

【相談窓口】保育人材支援相談員による保育所（園）で働く方の相談対応。

2 求人者向け

【発信サポート】求人者として「ほいく福岡」にご登録いただくと、下記の発信ができます。

- ほいくの魅力　＊ご登録の際には福岡県保育士・保育所支援センターへ電話をお願いします。
- 求人掲載　＊求人の取り扱いの範囲は福岡県または市町村から認可・認定を受けている保育所、認定こども園、地域型保育事業所となります。

【相談窓口】保育人材支援相談員による施設管理者の相談対応。

3 保育士資格を有している方向け

**保育士有資格者登録をしていただくと、処遇改善等加算の適用要件となる
キャリアアップ研修受講歴の管理ができます。**

＊ほいく福岡で出力されるキャリアアップ受講歴は修了証の代わりとはなりませんが、処遇改善加算の申請に使用できます。

保育 協子 様

2026/01/01 現在

取得年度	修了分野名	修了証番号	修了証発行日	研修実施機関名
2025	幼児教育	0000 00000000	2025-01-01	福岡県
2024	保護者支援・子育て支援	0000 00000000	2024-01-01	福岡県保育協会

保育人材相談窓口について

新しい「ほいく福岡」では相談予約ができるようになりました！
予約いただくと、スムースに相談窓口をご利用いただけます。
＼匿名OK！／

- ●保育に関わるお仕事をされているすべての方が無料でご利用できる相談窓口です。
- ●ご相談は、**匿名で**受け付けています。
- ●**専任の相談員**がお話しをお伺いします。
- ●職場の**人間関係**や**職場環境**に関するお悩みなど、お気軽にご相談ください。

オンライン面談もご利用いただけます！
園長先生、経営者のご相談もお待ちしています！
面談 電話 メール

電話	●相談時間：月～金 9～17時 ●1回当たり：60分 ●通話料がかかります 専用ダイヤル 092-710-0521
面談	●相談時間：火～金 9～17時 ●場所：春日市原町3-1-7クローバープラザ4階相談室 ●専用ダイヤルまたは相談窓口のHPから予約できます。 ●LINE、Zoomでのオンライン面談も予約してご利用いただけます。 ※面談は要予約です ※LINEは公式アカウントとのLINEコール（通話機能）の利用に限られます。トーク画面での相談はできません。
メール	●受付：24時間 ●返信にお時間をいただく場合があります。 「保育の相談窓口」WEBサイト上のメールフォームから受け付けております

●「こころとからだの健康コラム」（トピックス一覧）もご覧ください。

福岡県保育士・保育所支援センター　092-582-7955
保育人材支援相談員 相談専用ダイヤル　092-710-0521

新園紹介

子どもたちの「やってみたい」を大切に地域に根差した保育を

社会福祉法人 三国が丘福祉会　三国ひまわり保育園 園長　荒金 順子

社会福祉法人三国が丘福祉会は、福岡県小郡市において「三国が丘保育園」「さくら乳児保育園」を運営し、地域の皆様とともに子どもたちの成長を見守ってまいりました。そして、令和８年４月１日、新たに「三国ひまわり保育園」を開園いたしました。

三国ひまわり保育園は、これまで培ってきた保育の経験を大切にしながら、新しい時代の保育を見つめ、子どもたち一人ひとりの育ちに寄り添う園を目指しています。

本園が大切にしていることの一つは、**「子どもたち一人ひとりが安心して過ごし、安全に守られながら、自分らしく伸び伸びと成長できる場所」であること**です。子どもにとって保育園は、家庭と同じように安心して自分を表現できる場所であってほしいと考えています。一人ひとりの個性や発達の違いを受け止め、子どもの気持ちに寄り添いながら、主体的に生活や遊びを楽しめる環境を整えていきます。

また、**笑顔があふれ、子どもたちの「やってみたい」「楽しい」という気持ちを大切にしながら、保護者の皆様にも安心していただける保育**を目指しています。子どもたちの「やってみたい」という思いは、学びの出発点です。「やってみよう」と一歩踏み出した経験、思うようにいかなかった経験、友達と一緒に考えたり工夫したりした経験の一つひとつが、子どもたちの大きな学びにつながっていきます。保育者が先回りして答えを与えるのではなく、子ども自身が考え、選び、試すことができるよう、見守り、必要なときに支えていくことを大切にしています。

さらに、**さまざまな体験を通して、子どもたちの主体性と豊かな感性、そして学びを育むこと**にも力を入れていきます。自然との触れ合い、季節を感じる遊び、友達との関わり、身近なものへの興味や発見など、日々の生活の中にはたくさんの「学びの種」があります。子どもたちが「なんだろう」「やってみたい」と感じた瞬間を大切にし、その興味や関心を保育へとつなげていきたいと考えています。

本園の特色の一つが、**農園体験や、子どもたちが主体的に遊べる環境づくり**です。土に触れ、種をまき、野菜を育て、収穫し、食べるという体験を通して、自然の恵みや食への関心を育みます。また、子どもたち自身が遊びを見つけ、友達と関わりながら遊びを広げていけるよう、環境を工夫していきます。保育者が「何をさせるか」だけではなく、子どもたちが「何をしたいのか」「何に心を動かされているのか」を見つめることを大切にしています。

三国が丘福祉会は、三国が丘保育園、さくら乳児保育園、三国ひまわり保育園の３園が、それぞれの特色を生かしながら、職員同士がしっかりと手を取り合い、互いに学び、支え合うことで、法人全体としてより質の高い保育を目指していきたいと思います。

そして、**この地域に深く根差した福祉・保育を実践していきたい**と考えております。子どもたちは、家庭だけでなく、地域の中で多くの人に見守られながら育っていきます。地域の皆様とのつながりを大切にし、さまざまな人やもの、自然との出会いを通して、子どもたちの世界が豊かに広がっていくことを願っています。



column





人と人がであう保育
ともに生きる、ともに育つ

中広川保育園 園長　蒲池 度

はじめに

中広川保育園は八女郡広川町にあります。果物や久留米絣、ガーベラなどの生花が特産品の町です。四季折々の山や川や田んぼ道を散歩したり、園庭にはバッタやトンボや蝶々が遊びにきてくれます。豊かな自然に囲まれた環境で、子ども達はすくすくと毎日を過ごしています。

ある夏の日のことです。子ども達と「くものいと」の紙芝居を読んだことがありました。泥棒のカンダタが地獄に落ちて苦しんでいるところに、くもの糸が垂れてきて、糸を登って地獄からの脱出を試みるが、、、という物語。「良い行いも悪い行いも、いつか自分に返ってくる縁となる。」というメッセージが込められています。少し難しく、暗い雰囲気の物語を、子どもたちは神妙な面持ちで聞いていました。この子たちと読むにはまだ早かったかな、などと考えていた次の日、一人の子が私のところにやってきました。

「先生みてみて」と腕を見せてきた子の腕には、ぷっくりと蚊に刺された跡が残っています。とても痒そうでした。その子は続けて「おなかがすいてそうだったからね、吸わせてあげたの」と言いました。蚊が腕に止まって、吸い終わって飛び去るまで、じっと見守っていたというのです。その時私は「くものいと」のことを思い出し、この子は「いのち」について何かを学んだんだな、と思いました。この子に何と声を掛けてあげたらいいのか、悩みました。蚊には刺されて欲しくないけれど、小さないのちに向けられた慈しみの心は絶対に否定したくありませんでした。

私は子どもたちに「先生」と呼ばれていますが、子どもたちはしばしば私の先生になります。小さな「いのち」に優しくできる先生。ケンカしたあと素直に「ごめんね」が言える先生。嫌いなことに挑戦する先生。「めんどくさい」に打ち勝つ先生。全身で喜びを表現する先生。どれも私が苦手なこと。それを子どもたちは全身で「こうやるんだよ」と教えてくれます。「生きる」ことに一生懸命な姿に教わることが沢山あります。

ともに生きる、ともに育つ

当園が大切にしている「すべての人が、ともに生きる、ともに育つ」という保育方針は、「すべての人が同じ大地に立つ」ことから始まります。

保育士と子どもが、上下の関係になってしまうと、一方が他方へ思いを押しつけてしまう。そのような関係性がいま「不適切」という言葉で表されているのだと感じています。子どもをいきなり後ろから抱える、眠っている人を跨ぐ、大人同士なら失礼にあたるためにやらないようなことが、保育の現場では散見されることもあります。子どもは「半人前」だから、人権も「半分」か？人権学習で一時期よく聞こえていたフレーズです。「不適切」とは行為そのものよりも、子どもを半人前と定義してしまうようなものの見方を持ち「お互いの人格、人権の尊重に欠ける」関係性を指すのではないでしょうか。特に保育士は職務の性格上「やってあげている」という意識がどうしても生じやすいことは否めません。

私は、子ども達に人生のお手本を見せてもらう度に、あらゆる人に生かされ、育てられ、今の私が有るなぁと感じて、「おかげさまで」と頭が下がります。小さないのちも大きないのちもお互いに影響しあって一緒に生きている。それを感じる時、目の前の人と尊敬と敬意を持って向き合えるのではないでしょうか。

子どもも大人も、まだ人生の途中。「頑張れ！」でなく、「一緒に頑張ろうね」と声掛け合える関係性が、不適切を考えるはじめの一歩になると思うのです。

【編集後記】

今年度、広報部会長を拝命しました行橋市いずみ保育園　園長の植田智広と申します。前年度まで研修部会に所属して今年度からは広報部会ということで、さらには部会長という重責を頂き一期二年の任期を勉強と思い精一杯頑張りたいと思っています。

広報誌の製作にあたり、福岡県保育協会の活動報告や各地区保育研究大会、独自の活動などに加え会員園の皆さんにとって有意義な情報提供ができるような冊子作りを目指し年2回の発行ですが各地区の委員の皆さんと協力し、より良い紙面となるよう努めて参ります。

また、会員はじめ役員の皆様や会員園の様々な先生方に原稿依頼をお願いすることもあるかと思いますが、お声が掛かった際には快くお引き受け頂けると助かります。

最後に令和9年度には福岡県で九州保育三団体研究大会が開催されます。福岡県保育協会一丸となって大成功となるよう盛り上げていければと思っていますのでよろしくお願いします。

発行日　令和８年 10 月 23 日
発行者　岡村 斉
編集者　植田 智広
発行元　公益社団法人
福岡県保育協会
春日市原町 3-1-7
ＴＥＬ　092-582-7957
ＦＡＸ　092-582-7956

2026年1月現在の内容です。

福利厚生の充実による優秀な人材確保と
職員の皆さまに安心して働いていただくために



職員のための
病気とケガのトータルプラン
（業務災害総合保険）

特長1　業務中、通勤途上のケガを職員の人数に関係なく補償します。

特長2　園の職員全員を無記名で補償します。
●パート、アルバイト、派遣職員も補償できます。



特長3　職員の増員・入れ替りも自動的に補償します。
●年間総収入による保険料で、人数の報告・精算などは不要です。

特長4　病気による入院の補償や、がんによる通院の治療費補償も追加できます。
●病気を補償する特約については、事業主、常勤※の法人役員（理事・監事）、職員、常勤※のパート・アルバイトの方が対象となります。
※常勤とは、病気を被った時の直前6か月間における、週あたりの平均労働日数が3日以上、かつ週あたりの平均労働時間が15時間以上に該当する場合をいいます。

特長5　労災事故の賠償金や訴訟時の弁護士費用を最大5億円まで補償できます。
●損害賠償金額の決定や争訟・弁護士費用などの支出にあたっては、事前に弊社の承認が必要です。

＊「職務災害トータルプラン」は、「職員のための病気とケガのトータルプラン」に2022年9月1日より名称を変更しました。

お申込みは３月末まで

小学生のための
キッズガード®
約59%割引※『園児総合保障共済制度』（こども総合保険）

キッズガード®
約59%割引※『児童総合保障共済制度』（こども総合保険）

特長1　団体割引適用
園が窓口の団体加入制度だから、団体割引・損害率による割引が適用されています。
※前年2025年度、加入者数5万人以上の割引率

特長2　24時間補償　ケガによる入院・通院は1日目から補償
ケガによる入院・通院など、
お子さまをとりまく様々なリスクに対応した保障制度です。



特長3　ご家族の賠償事故も対象　国内示談交渉サービス付き
個人賠償責任補償はお子さまとご家族が対象です。

特長4　お電話一本でお支払い　簡単支払特急便
ケガによる入院・通院で10万円以下のご請求は、
お電話一本で保険金をお支払いします。
※ご利用にあたっては所定の条件があります。



【お問い合わせ先】

株式会社キッズサポートインシュアランス（KSI）
住　　所：大阪府大阪市中央区船場中央3丁目2番8号
船場センタービル8号館327号
電話番号：06-4708-8815
ＦＡＸ：06-4708-8858

【引受保険会社】

AIG損害保険株式会社
大阪プロチャネル営業部
〒530-0011 大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪タワーB36F
電話番号：06-7223-2010
午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ：https://www.aig.co.jp/sonpo

※この広告は保険商品の特長をご案内したものです。詳細につきましては、パンフレット等をご覧いただくか、弊社までお問い合わせください。

B-250534

［全私保連推奨］各種団体保険制度

有限会社ゼンポ　公益社団法人 全国私立保育連盟　東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん
Web加入可能

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん
Web加入可能

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん
Web加入可能

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいのほけん
Web加入可能

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

24時間のおケガ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱代理店
有限会社ゼンポ
TEL：03-3865-3881
FAX：03-3865-2806

引受保険会社
東京海上日動火災保険株式会社
担当課支社：公務二部 文教公務室　TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付　費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先

公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ　TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階



保育・子ども施設と保護者の連絡アプリ

きっずノート

全国私立保育連盟推薦

連絡機能特化アプリ きっずノートの

ここがすごい！

POINT1
写真・動画配信
無制限

POINT2
シンプル費用設計
人数制限・オプション料金一切なし
月額5,500円 税込

POINT3
130カ国以上の言語対応
翻訳機能

きっずノートの詳細はここからチェック！

きっずノート

Instagram @kidsnote.jp_ict

YouTube @kidsnotejp

25TC-004500　2025年12月作成